

名誉会員追悼



故 名誉会員 不破 祐 先生

一般社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、東北大学名誉教授、工学博士 不破 祐先生は、平成 25 年 11 月 23 日早朝ご逝去されました。享年 98 歳でした。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、1941 年 12 月東北帝国大学工学部金属工学科を卒業されました。1942 年 1 月東北帝国大学大学院入学、同年 10 月東北帝国大学助手に奉職されました。1943 年大学院特別研究生、1945 年講師を経て、1946 年 1 月助教授に昇任されました。1954 年 8 月より 1957 年 9 月までほぼ 3 年間米国 MIT に出張、留学生活を送られ、1958 年 2 月 MIT より Doctor of Science を授与されました。1962 年 4 月東北大学教授に昇任され、的場幸雄先生の後を継がれて、鉄冶金学講座を担当されました。1975 年からは東北大学評議員を 2 年間勤められ、1979 年定年退職されました。その直後から 1994 年まで、新日本製鐵株式会社の参与・顧問として製鉄生産現場の技術者の育成にご尽力されました。その間、日本学術振興会製鋼第 19 委員会副委員長、製鉄第 54 委員会、冶金物質の高温物性第 140 委員会委員を務められ、学と産の研究指導と人材育成に尽力され、日本鉄鋼協会では副会長、日本金属学会では会長等の要職を務められました。

先生は、鉄鋼のガス分析法開発、溶融合金鉄中の成分活量測定、溶融合金鉄中への水素と窒素の溶解度測定、高温熱量計による鉄合金の混合熱測定、溶融スラグへの水蒸気溶解度・硫黄吸収能、溶融スラグの構造、製鋼反応の脱炭・脱硫・脱酸・脱窒の速度論等に関する先駆的な研究を行われました。

MIT 時代の恩師 J. Chipman 先生、友人を初め、世界中に非常に多くの親友を持たれ、堪能な語学力を駆使し、鉄鋼製錬学における日本の国際的地位を高めることに貢献されると同時に、多くの日本人研究者、技術者の外国留学のお口添えをしてくださいました。この業績に対して、豪州ニューサウスウェルズ大学 Lebahulme Fellow、米国鉱山金属学会 Fellow、さらに外国人として初めて中国工程院の院士、日本人として初の米国 National Academy of Engineering の外国会員に推挙されておられます。

東北大学が主催する、鉄鋼製造プロセスに関する的場記念川渡セミナーは、先生の資金提供と発案で 1974 年に始められ、これまでに 39 回を迎えており、産学の研究者、技術者が未発表の研究を、数日間宿泊して、発表・討論し、日本の鉄鋼業の発展に大いに貢献してきています。

以上のような先生のご業績に対し、本会より 1962 年渡辺義介記念賞、1975 年協会事業功労賞、同年俵論文賞、1976 年西山賞、1982 年名誉会員、1985 年製鉄功労賞、1995 年俵賞、日本金属学会からは 1961 年功績賞、1971 年谷川・ハリス賞、1976 年本多記念賞を初め内外の学会から数多くの賞が授与されました。これらのご貢献に対し 1988 年には勲三等旭日中綬章が叙勲されました。

先生は常に高い理想を掲げられ、安易な妥協を許さない厳しい研究態度で自らを律せられる一方、スポーツを愛され、旧制高校時代は陸上選手として活躍され、東北大学在職中は陸上部部長を務められ、研究室においてはジョギング、登山やスキーを学生たちと一緒に大いに楽しまれました。このように先生は、広い視野に立ち、温情を持って学生、研究者の指導に当たられました。問題点を率先して的確に取り上げ、学問的な交流を深めるなど、晩年まで研鑽を続けられ、門下生のみならず産業界の技術者達など、国内外の多くの方々からも深い尊敬の念を抱かれ敬愛された先生でした。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同衷心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成 26 年 4 月
日本鉄鋼協会 会長 加藤雅治